

わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(1月)

＜ご紹介者＞

矢祭町長 佐川 正一郎

矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



『クマと少年』

あべ弘士 作 / ブロンズ新社

対象：幼児から高齢者まで



内容のご紹介

“日” 新たなるを要す。新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いを申し上げます。

新春を迎え、健やかに過ごしのことと存じます。今年も“読むことは、生きること” 絵本の力を伝えたいと思っています。

今月ご紹介する絵本は、あべ弘士先生の“クマと少年”です。矢祭町の読書文化向上に最もご理解をいただいている先生の一人です。感謝を申し上げます。

子熊のキムルンと少年との出会い、そして、それぞれの別れのお話しです。アイヌの人々にとっての文化である“イヨマンテ”という「クマ送り」の儀式があります。

“イヨマンテ”とは、私たちが自分の子供を愛情をもって育てることと同じ様に子熊を1年から2年かけて大切に育てた後、その魂を神の世界へ送り返す儀式です。アイヌの人々にとってクマは、山の神で最高神です。

この絵本から学ぶことは、私たちが文明社会の中であっても自然の中で生きています。動物達との共生や自然環境との関わり方が大切です。感動を学ぶ絵本だと思います。お正月に、ご家族で読んでください。私からの必読の一冊です。

かあさんのおっぱいをいっしょに飲んで、本当の兄弟のように育てられた少年とクマのキムルン。いっしょに野の花で遊び、虫や魚をおいかけた。キムルンが大きくなった頃、アイヌの人々にとっての最高神であるクマを天に帰す儀式、イオマンテがやってきて……。山の神クマとアイヌの少年をめぐる壮大ないのちの物語。

紹介文: ブロンズ新社 / 矢祭もったいない図書館